

令和6年度 第3回学校運営協議会記録

令和7年2月21日(金)

9:30~11:00

【出席者】

・委員(14名中12名出席)

吉利会長 小椋委員 片山委員 小延委員 高田委員 竹本委員 植田委員
難場委員 星川委員 本田委員 森委員 中村校長

・教職員(計11名出席)

1 開会【吉利会長より挨拶】

2月の下旬となり今年度も残すところあと1ヶ月ということになり、この会議も今年最後となりました。先生方からいただいたご意見を踏まえて成果と課題をしっかりと次年度に引き継いでいけるような議論を今日もいただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【西村】

半数以上の出席なので、会として成立することを報告する。

2 報告と協議

(1) 生涯教育の取組について【中山】

生涯学習推進に係る取組について

・本年度の学校経営計画書には、生涯学習推進に向けて、地域の資源の活用、児童生徒の興味関心を高める活動の広がり、生涯学習につながる取組の推進という3つのポイントが示されている。

1学期の報告後委員の皆様へ頂いたアドバイスを実践に生かし、本物に触れること、地域に出て行くこと、SNS等での発信等を行った。教科学習や将来の生き方とも結びつけるという意識ももって取り組んでいる。

・パラリンピックに出場された方に来校していただき、授業を受けたり、プレーを見せていただいたりした。本物のバスケット用の車椅子に乗る体験ができたり本物の経験を語っていただいたりする中で、児童生徒の中に他者への憧れや尊敬の気持ちが生まれ、その後の学校生活でも諦めずに前向きに挑戦する姿が見られた児童生徒もいた。

・生徒自らが日頃の成果や学校行事の様子を記事にまとめ、写真とともにホームページにアップする取組を行った。国語や職業の授業で学んだことを生かしながら、自身やグループの取組についてiPadやパソコンを用いて記事を作成し、自身でアップした。直接反響が届くことで、記事にした行事や取組に対しさらに興味や意欲が高まった。

・美術科や担任と連携し、作品の出品を行い、書道の作品については全国特別支援学校文化祭書道部門において肢体不自由教育校長会長賞を受賞した。誰かに届くことを意識して制作する過程や出来上がったものを出品先で評価していただけることに重きを置き、分野を問わず児童生徒の達成感が得られるような取組を今後も続けていきたい。

・障害者スポーツ大会について、1月以降、活躍した生徒の様子をSNSやブログで紹介した。また、保護者や教員、各協会団体の協力もあり、次回大会のエントリー準備がすでに進んでいる。参加者数と参加種目数も増え、ボッチャのサークルに所属したりフライングディスクの練習会に参加したりする生徒、陸上競技の投てきの種目練習に取り組んでいる生徒もいる。

・今後は、他の先生方の経験や専門性を生かして役割分担をしていきたい。また、重点項目を絞って取り組む中で、障害の重たい子どもたちの生涯学習も充実させていきたい。

グループ協議

協議題：「生涯学習の意義と今後の取組について」

生涯学習の意義について話し合い、今後の授業や取組について考えたい。また、こんな取組もできる。こんな人材がいる。委員の皆様それぞれのお立場でこんなことだったらできる等の提案や情報提供をいただきたい。

【1グループ】

- ・ 社会に出る準備として意義のある活動。学校でしか教えてもらえないことがある。社会に出るとなかなか学べる機会がない。
- ・ 自己理解が十分にできていないケースがある。生涯学習で様々な経験をすることは、自己理解にもつながるのではないかな。
- ・ 大谷選手のマンガラチャートのように、児童生徒の成長が見える化するとよいのでは。
- ・ 人と接する中での挨拶等、社会に出て役立つ、挨拶の中で交わす言葉や表情のやりとり等は、企業等の管理職でも大事にしていること。是非取り組んでもらいたい。
- ・ 本物に数多く触れることが、障害によって外に出ることが難しい子どもたちの可能性を広げる。将来的に「好き」を見つけることにつながっていくのでは。
- ・ 障害者雇用に積極的に取り組む企業による講話
- ・ 先輩社員からの講話（仕事や生き方）
- ・ 野菜作りと収穫（サツマイモ等）
- ・ 中原川公園を使用しての地域との交流（桜の時期のお花見等）
- ・ パラスポーツ（車椅子陸上）の体験、選手からの講話
- ・ 専門的な生産者・作成者等とのオンライン（会議形式）でつないで見る・知る機会の設定

【2グループ】

- ・ オンラインで他校や外国の人と交流する。
- ・ 児童生徒が先生となり生徒や保護者等に指導する。（授業で身に付けたこと）
- ・ 仕事以外のことで興味関心のあるものを作る。同好の人たちと交流できる。
- ・ 「卒業後どう生きていくか。どう生活していくか。」は個々で異なる。
- ・ 農業分野において果物を作る等もいい。
- ・ 引き続き本物に接する機会を増やしていく。同時に、趣味の世界でアマチュアの人たちとの交流を進める。
- ・ 昔遊びの体験もいい。
- ・ 生涯学習は社会を知るための大事なこと。

【3グループ】

○生涯教育の意義

- ・ 余暇の過ごし方や楽しみを見つける。卒業後豊かな人生を送るために必要。
- ・ 好きなものに打ち込んだり、楽しい時間を過ごしたり、人とかがわって人生を充実させる。
- ・ 「学校でできることが増えたのに。」「学校で使用したあの装置があればできるのに。」といったことが卒業後に起きてしまう。学校にあって施設にないものが多い。物質的な情報を申し送って欲しい。補助具がない。さをり織り機がない等。

○今後の取組

- ・ いろいろな体験に行ってみる。SNSトラブル対処のルール勉強。
- ・ 本物に触れる。スポーツ等。
- ・ 高島公民館が拠点の場所になる。吹き矢体験や高島音楽祭もある。
- ・ 某中学校在学中に松永さんの講演を聞き、車いすレースに憧れ、ユニバーシアードで銀メダルを取った生徒がいる。

- ・地域に美術や絵の先生が居られる。鑑賞だけでなく実際に描く活動をする。以前福祉文化会館にて午前料理や絵、午後車いすダンスをするサークルに入って楽しんでいたが、岡山市の予算がなくなり解散した。いろいろなことに関わっていくことが大切。
- ・学校は、人とのつながり方を学び、人とのつながりを作っていく場であってほしい。

【中山】

- ・活発なご意見ありがとうございました。今後の学校での実践をする時に、子ども主体であること、子どもが真ん中にいることを踏まえ取り組みたい。
- ・オンラインで本物から学ぶ部分は、引き続き先生方が主体になって広げられるような仕組みや態勢作りに取り組んでいきたい。
- ・周りの大人のチャレンジ精神が、子どもたちの長い人生を見越した生涯学習につながっていくことをあらためて気付かせていただいた。

(2) 令和6年度取組と次年度の方向性について

学校評価アンケートの分析と課題【栗原】

- ・アンケートの回答は、保護者は個人端末を用いた入力と紙面アンケートの2種類で行い、教職員は個人端末を用いた入力のみで行った。保護者は、ほとんどの方が個人端末から回答された。回収率は昨年度よりも上がった。
- ・保護者教職員に共通して、学部目標や発達段階を意識した指導が評価の高い項目であった。自立活動推進チームとICT活用推進チームが自立活動の検討に関わり、児童生徒のアセスメントの結果から発達段階に応じた指導の提案を行ったことが成果につながったと考える。また、研究において発達段階に応じた教科指導について、外部講師から話を聞く機会を設けたり研究授業を行ったりしたことも成果につながったと考える。
- ・個別の指導計画に沿った指導の評価が保護者教職員共に高くなっている。研究で自立活動を下支えとした教科の学びについて昨年度から取り組んでいること、また、推進チームが巡回指導や抽出指導を行い、教科の学習と自立活動との関わりについて取り組んでいったこと等が成果につながったと考える。
- ・卒業後を考えた教育について、教職員の評価に比べて保護者の評価が低くなっている。教職員は卒業後のアフターケアや卒業生を囲む会等を行うことで、卒業後の生活をイメージしながら教育活動を行っているが、そのことを含めた本校の教育活動が保護者に届いていないということが分かる。また「分からない」と回答した保護者が16%いたことから、学校からの情報発信も課題であると言える。さらに保護者のニーズが高いため、学校全体としてこれまで以上に力を入れて取り組むべき項目であると言える。以上のことから、懇談等で保護者のニーズを丁寧に聞き取り、公開できる情報については通信やSNS等を通じて保護者に情報を発信していくようにしたい。
- ・地域への教育活動の発信に関する項目は、保護者教職員共に肯定的評価が低くなっている。さらに保護者の26%が「分からない」と回答。学校と寄宿舎が連携し、寄宿舎の人材や施設を活用した取組等について学部からも自宅生や施設生の保護者へ通信やSNSを通して発信してもらってはどうかという提案が上がっている。
- ・健康状態の把握については、保護者、教職員共に高い評価を得ている。家庭と学校とで連絡帳や送迎の際の連絡等を通してしっかり情報共有ができていること、また、医療的ケアも含めて保健室や施設との連携を大切にしていることが成果につながったと考える。
- ・安心安全な学習環境が高い評価を得ている。施設設備を整備し、隣接する施設と連携して学習環境を整えていることが成果につながったと考える。
- ・いじめ対策についての評価が保護者と教職員で差が生じている。さらに保護者の24%が「分からない」と回答している。学校では、児童生徒と担任との日頃の会話や生活に関するアンケート等を通して児童生徒の困り感をできるだけ早くキャッチできるようにしている。その後、教育相談等で

児童生徒の話を丁寧に聞いたり、各部のコーディネーターが中心となり校内支援委員会やいじめ問題対策委員会の中でも情報共有をしたりしながら問題の解決に取り組んでいる。この内容については保護者の方にお知らせすることは難しい場合もあるが、生活に関するアンケートや教育相談について、そのねらいや成果等について、通信やSNS等を通して周知していきたいと考える。

・福祉医療サービスの情報提供についても課題が上がっている。センター的機能の充実については各部のコーディネーターからセンター的機能としての特別支援学校の意義や役割について教職員に周知するとともに、懇談等を通して児童生徒のニーズを丁寧に把握し、コーディネーター等と情報共有していきたい。

・寄宿舎に関しては、「分からない」と回答した保護者が20%を超えている。自宅生や施設生の保護者が興味をもって寄宿舎の取組について知ってもらうことは大変難しいが、学部の協力が不可欠であり、教職員からの働き掛けがこれまで以上に必要である。

・コミュニティスクールに関する保護者の回答は、全ての項目において肯定的評価が70%台と低く、さらに「分からない」とした回答の割合も高くなっている。令和元年度より地域のコミュニティスクールとして学校運営協議会を設置し、本校の教育活動の充実や地域への貢献に向けて保護者や卒業生、地域の方々との意見交換や情報共有を行っている。文化祭で開催したファッションショーは児童生徒の願いをもとに学校運営協議会で協力いただいて実現したものである。この他にも地域の方や外部講師と行った授業や、地域の方と一緒に学ぶ防災ワークショップの実施等地域の方と連携した取組を行っている。しかし「分からない」と回答した保護者が約20%いたことから、情報発信の方法を考え直さなければならないと考えている。

・次年度に向けて3つの柱「専門性を活かすこと」「キャリア教育を充実させること」「情報発信方法を改善すること」を考えている。キャリア教育の充実については、一人一人の適正やニーズを踏まえ、卒業後を見通した進路学習を充実させること、地域の教育資源を活用して卒業後につながる生涯学習を充実させることに取り組んでいく。情報発信方法の改善については、現在運用しているSNS（Facebook、Instagram、X）を連携していくことで効率的に情報発信ができるようにすること、そして発信した情報を受け取ってもらうための仕掛け作りをすることに取り組んでいく。さらに、3つの柱をそれぞれ関連付けながら取り組んでいくことが重要であると考えている。

ICT活用推進チームの取組について【柴田】

◎学校経営目標をもとにチームで取り組んだこと

○児童生徒がやってみいたいという意欲をもち学習の充実を図るICT機器の積極的な活用推進

例1) ピエゾスイッチを活用してスポンジを少し押すとスイッチを操作できるようにし、選択画面を2つにして大きくなった時にスイッチを押すと再生される。

例2) 登校意欲の向上を目指すこと、正しい姿勢を意識できるように、Nintendo SWITCH のマリオカートを活動として取り入れた。姿勢を意識して座れる時間が伸びてきたと同時に、月曜の1時間目に友達と一緒にできる時間を設定することで、登校意欲の向上につながった。

例3) 高等部では、ロイロノートのアプリを多くのクラスで活用している。自分の意見を文字で入力し、友達に伝える手段としてICTを活用した。

例4) 高等部の美術の授業では、友達の作品に対して感想を伝えることができるコメントボードを活用した。自分の思いを友達に伝えたいと意欲的に取り組み、自ら学ぶ主体的な授業につながった。

○ICTの効果的な活用で学校間や事業所との交流

例1) 早島支援学校、東支援学校との交流を毎週水曜日の昼休みに行っている。リモートで自己紹介をしてオンラインゲームで対戦し、児童生徒は楽しそうに取り組んでいる。

例2) 誕生寺支援学校の訪問教育の児童と本校の訪問教育の児童とで風船割りゲームをする交流を2回した。

○ICTの指導支援の普及として、校内で教職員にいろいろな技術を伝えることや情報発信を行う

例1) ICTのニーズに応じた研修を行った。ICT機器展示会については外部の方々にも公開を行い他校の先生方や施設の方々にも来ていただいた。

例2) 情報発信として、ICT活用実践をホームページやSNSで発信している。

◎今後の取組

特別支援教育のセンター的機能の充実を目指してICT活用推進研究会を立ち上げた。この研究会では、各種スイッチや視線入力、タブレット端末等のICT活用支援を各関係機関の方と一緒に考えていきたい。個々に応じたスイッチの制作や各種機関との情報交換等を通して生活の質の向上を目指したい。事業所の方々も参加予定のため、卒業後の引き継ぎの機会もできたらと考えている。第1回研修会を3月24日(月)1時から4時で開催予定である。

自立活動推進チームの取組について【有吉】

- ・自立活動とは、児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて主体的に自分の力を可能な限り発揮しよりよく生きるための学習である。例をあげて説明。
- ・理学療法作業療法等は病院の先生からの指示のもと、日常生活を行う上で基本となる動作の改善を支援したり作業に焦点を当てた治療や指導、援助をしたりするものであるのに対して、自立活動は子どもが困っていることに焦点を当て、それを子どもの力で改善できるように指導計画を立てて指導していくということが大きな違いである。
- ・推進チームは、担任教員を中心に困ったことの相談を受けたり、指導を一緒に考えたりしている。プール学習においても、研修を行ったり、授業のサポートを行ったりしている。
- ・担任教員から指導相談を受けて、一人一人に合わせた教材教具の作成も行っている。それぞれの児童生徒が得意とする手の動きで教材に働き掛けられるように工夫している。
- ・自立活動通信の発行も今年度から始め、年間15回の発行を目標に取り組んだ。推進チームのメンバーが関わっている自立活動の取組の様子を報告したり、研修で学んだことを教員や保護者の方と共有したりするために行っている。
- ・課題として、推進チームを含む教職員全体の自立活動における指導力の向上が挙げられ、自立活動の専門的な視点で児童生徒の姿を捉え、取り組むべきことを整理することである。

情報発信の取組について【西村】

- ・本校では様々な方法で情報発信を行っており、SNS等による発信は5種類の媒体を使って発信している。発信する媒体によって内容や発信者、頻度が変わってくるので、見る媒体によって得られる情報が違う。
- ・紙媒体による発信は8種類で、通信等により発信している。寄宿舍便りは舎生の保護者のみの配付。それ以外の7種類については保護者と旭川荘に配付している。
- ・今後各種通信を通じてより認知してもらえるように取り組む。

グループ討議(時間が超過し未実施)

協議題: 「学校の取組や魅力の発信について」

SNSを活用し、学校の取組や魅力について発信しているが、保護者や地域の方に十分に認知していただけていない現状がある。本物の魅力発信の方法について話し合いたい。

・司会者

意見、質問があれば後で教員まで。アドバイスがあればまたお願いします。

3 令和7年度学校経営計画の方向性について【中村校長】

- ・ご意見をいただく時間が取れなかったこと申し訳ありません。

- ・推進チームは成果を上げていると思うので、今後も組織を若干変えて取り組んでいきたい。
- ・生涯学習についても係を作り進めているところ。障害者スポーツ大会にはしばらく出場していなかったが、星川会長や保護者等のご協力も得ながら、ピカピカ光るメダルや子どもたちの笑顔が見られた。児童生徒の気持ちを大事にして生涯学習の視点から取組を進めていきたい。
- ・子どもたちの今だけでなく地域の子もたち、あるいは事業所や卒業生も含めた色々なことができると思う。先生方の思いを大事にできる学校でいたいと思っている。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

4 その他【西村】

本日の会議の様子をFacebookにあげるので、ぜひご覧ください。時間を超過してしまいご意見が頂けず大変申し訳ございません。SNSをご覧いただいて、ここが分かりにくい、ここを改善したらいいのではないか、といったことがありましたらメールや電話、FAX等でお知らせください。情報発信についての課題の中でもあった、各SNSがそれぞれ別の内容をあげているということがありましたが、こちらの方も来年度改革していきたいと思っているので本校のSNSを随時見ていただけたら幸いです。

5 閉会【植田副会長より挨拶】

生涯学習の意味や意義って本当に何だろう、難しいことだなと今日改めて感じた。多分今それぞれ置かれている立場で、できることを受け取ること、できることをすることが大事だろうと思う。生徒さんや学校のSNSを見させていただいて、子どもたちや先生方のメッセージを見ながら、まずできることから始めていきたいと思っている。地域の皆様も引き続きお力添えのほどよろしくお願いいたします。以上挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

